

【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】

しおたに たもつ
汐谷 保(兵庫県神戸市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
あきだわら	約1.3ha	652kg/10a	150kg/10a(501kg/10a) ※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 昭和48年に営農開始、酪農中心の経営から、水稻経営に移行し、平成28年に飼料用米の生産開始、経営面積約3.2ha
- 家族2人(本人、妻)の専業農家
- 水稻専作で、飼料用米、WCS用稲を中心に栽培し、経営面積の40%が飼料用米。

【作付品目】

- ・主食用米:きぬむすめ 0.7ha
- ・飼料用米:あきだわら 1.3ha
- ・WCS用稲 1.0ha
- ・野菜等 0.2ha
- 計 3.2ha

【取組のきっかけ】

- かつては酪農(育成牛を含めて45頭)経営をしており、水田ではWCS用稲を作付けていたが、高齢に伴い8年前から水稻生産の経営にシフトした。
- 主食用米と作期が重ならない兵庫県の推進品目である多収品種「あきだわら」を作付けている。
- 本地域ではいち早く耕畜連携(酪農・養鶏家と連携)に取り組んでおり、現在、飼料用米とWCS用稲が経営の柱になっている。

【取組概要】

- 鶏糞たい肥(2t/10a)による土づくり、高度化成肥料(14・14・14)を田植え前に全層施肥(40kg/10a)し、高単収を実現。
- 単位面積当たりの苗箱数を減らした疎植栽培(12箱/10a)により、苗箱の運搬や田植機への補給回数を減らしコスト削減に取り組む。
- 除草の省力化のため、田植えと同時に除草剤を施用している。
- 飼料用米の作付ほ場(4箇所)を固定し、他品種の混入を防止している。

